

**公共交通機関事業者が連携して、観光振興を推進**  
～市民の足が、観光客の重要な足として活用される取り組み～

**POINT**

- ・ 公共交通機関事業者が、連携して観光客の足の確保と利便性向上を図る
- ・ ターミナルでの、アクセシビリティ向上の取り組み
- ・ 地方自治体と連携して、多言語対応等訪日客の二次交通利便性向上の取り組み

北海道地区は、二次交通手段としてマイカー、レンタカー、タクシー、都市間移動バス、JR北海道が選択肢して考えられるが、訪日観光客も含めた訪問客の要望に応えるためには、多様な二次交通手段<sup>1</sup>を整備する必要がある。

又、特に東北北海道地区については、DMO等が意欲的に新しい自然体験のコースを企画しているが、自然の豊富な地域である一方、交通手段の確保が課題となっている。

十勝圏は、北海道日高山脈東部と太平洋岸を含む十勝川流域に南北に160km、東西方向に約70km広がり、1市16町2村を有し、農業を主要産業とする圏域である。

十勝の交通機関としては、空路（とちかち帯広空港：羽田、中部/季節運行、国際線は、チャーター運行、鉄道（JR 根室本線）があり、道央と結ぶ道東自動車道において都市間バス（6事業者）、帯広駅を拠点とした二次交通としては、路線バス（2事業者）、タクシー（33事業者）が運行している。現在の二次交通における多言語対応としては、一部路線バスでの英語アナウンス、バス停表記の多言語化、タクシー事業においては、外国語対応可能な事業者は、1社となっている。

平成27年度に十勝圏を訪れた外国人旅行者は、前年度に比べて1.5倍増の13.2万人（宿泊客延数18万人）となっており、内訳としては、台湾・香港の割合が高い。

十勝の中核都市である帯広市では、十勝管内町村、関係団体と連携して、台湾や香港、中国、シンガポールへの観光プロモーションにおいて、景観・食・アクティビティによる体験型観光による訪日客を推進しており、今後の受け入れ整備が求められている。

なかでも台湾からの観光形態は、これまでのツアーバス等による団体旅行が中心であったが、近年は、景気の影響や宿泊予約環境の変化に伴って個人旅行が増加しており、広大なエリアにおける、多様な需要に応じた移動環境の整備が求められている。

現状は、JR北海道の利用が、ダイヤ本数が少ないこともあり、釧路空港、帯広空港に航空便で到着した後の足の確保において、タクシー、都市間移動バス、空港シャトルバス、路線バスを整備することが、観光振興において必須の条件となっている。

十勝地域については、帯広空港からのシャトルバスと共に、道東を周遊するバスの運行が実験的に2017年から始められ、釧路地域からの移動アクセスが可能となった。

<sup>1</sup> 北海道観光の現況 2017年版引用 外国人観光客の移動手段 鉄道50.9% 観光バス51.5% 路線バス22.0% レンタカー19.8%

また帯広地域は、十勝地区のバス会社とタクシー会社が連携して、「十勝圏二次交通活性化推進協議会」を立ち上げ、路線バスとタクシーで巡る域内観光コースを設定して運用している。

十勝地域の公共交通機関を観光地めぐりに活かす試みは、地域公共交通機関の活性化にもつながり、住民にもメリットのある試みであると共に、帯広市内を拠点として観光客の地元観光地への足の確保にもつながり意義があることである。

また、JR 帯広駅に隣接する、バスセンターへのアクセスは、点字ブロック、点字版の設置等行政と連携して、バリアフリーに取り組んでいる。

帯広駅構内のインフォメーションセンターも、英語、中国語の対応が可能であり、年々増加する訪日客への対応も、観光、交通事業者と行政が連携して対応を進めている。

<取組の概要>

### □十勝圏二次交通活性化推進協議会の活動

平成 27 年に十勝圏二次交通活性化推進協議会の活動が、十勝バスが主導となり十勝地区バス協会として、ハイヤー協会に声かけを行い開始された。

従来は、バス会社とタクシー業界は、競合関係にあったが、協業で観光コースを策定することにより観光客のニーズに応え、十勝地域全体の観光の利便性があがり、観光客誘致につなげることを目的に業界、会社の枠を越えた連携がなされる組織として、立ち上がる。拓殖バス、毎日交通など他のバス会社も含めて、十勝地域の観光地を路線バスとタクシーでほぼ網羅する形となっている。観光地の割引とバスの乗車の組み合わせで、各バス会社等の窓口で事前にチケットを購入して利用することが出来る。年間約 6000 名の利用があり、外国人の路線バス利用も最近目立つ様になってきたという事である。チケットを今後販売拡大のため旅行会社の窓口等でも購入出来る仕組みが検討されている。

市内バス停における多言語表記の状況

Package name	Course	Package fee	Package details
Bene Takachi and Takachimaru	Obihiro Station Bus Terminal → Racecourse → Obihiro Station Bus Terminal	Adults: 500 yen, children: 150 yen	Bene Takachi ticket, gift voucher (200 yen) for use at Takachimaru
	Takachi Obihiro Airport → Racecourse → Obihiro Station Bus Terminal	Adults: 1,200 yen, children: 750 yen	
Obihiro Zoo	Obihiro Station Bus Terminal → Racecourse → Obihiro Station Bus Terminal	Adults: 1,200 yen, children: 750 yen	Obihiro Zoo ticket
	Obihiro Station Bus Terminal → Zoo → Obihiro Station Bus Terminal	Adults: 1,400 yen, children: 900 yen	
Wine Castle and Wine Castle Cafe	Obihiro Station Bus Terminal → Wine Castle → Obihiro Station Bus Terminal	Adults: 1,400 yen, children: 900 yen	Gift voucher (500 yen) for use at Wine Castle, limited commemorative gift, exchange ticket for a gift for commemorating a visit to Kumabaru confectionery
Rakubutsu Railway Kurokawa	Obihiro Station Bus Terminal → Rakubutsu → Obihiro Station Bus Terminal	Adults: 4,500 yen, children: 3,000 yen	Rakubutsu Railway operating experience, 10% discount on Shibara goods at the shop at Rakubutsu Nihi-mo-Eki (period: Apr. 22 - Oct. 28 "Closed" Tue, Wed.)

現在のウェブサイト

□十勝圏二次交通活性推進協議会観光コース例

十勝地域の観光地であるワイン城、ばんえい十勝競馬場、帯広のスイーツ店割引などの観光地・買い物と路線バスの組み合わせで、観光地施設、乗車券の割引を設定している。

例) ワイン城と DCTgardenIKEDA 見学 (帯広駅発着 大人 1,400 円 子供 900 円)

ばんえい十勝・とちむら (帯広駅発着 大人 500 円 小人 350 円 ) おびひろ 1 day

スイーツ満喫(帯広駅発着 大人 1,350 円 小人 900 円) おびひろ遊湯バスパック (帯広駅発着 大人 500 円 小人 250 円 ※通常大人 880 円 バス乗車券+入浴券)

また、タクシーとの組み合わせで、以下の様なコース設定も行っている。

例) 真鍋庭園・紫竹ガーデン 帯広駅 (バス) →紫竹ガーデン (タクシー) →真鍋庭園 (タクシー) →帯広駅前 小型タクシー1 台料金 4,800 円 紫竹ガーデン入園料割引等特典あり。



日帰り路線バスパック  
パンフレット



十勝バス スイーツ  
GET の旅コース

十勝バス ばんえい  
十勝・とちむら  
コース

十勝バス 日帰り路  
線バスパックコース

## □帯広市の二次交通アクセス状況

帯広市は、人口 16 万 7 千人の道東の中核都市の一つであるが、主な交通機関として、十勝地域への放射線状に伸びるバス路線と、J R 根室線、タクシー、乗り合いバス等が主な地域の足となっている。観光客誘致を図る中で、J R 駅構内に設置されたインフォメーションセンターの多言語化等の充実が図られている。英語、中国語で案内できるスタッフの配置、多言語パンフレットのコーナーの設置などの対応をしている。また駅に隣接したバスターミナルへの導線が確保されており、バリアフリー対応にも配慮されている。観光案内所の入り口にも簡易の案内ブースを設けており、観光客の利便性が配慮されている。



帯広駅バスセンターへの点字ブロック、点字表示対応

帯広駅観光案内所

帯広駅観光案内所への導線バリアフリー対応

## □帯広市観光振興策と二次交通

帯広市では北海道とバス事業者によって、路線バスの 1 日または 2 日乗り放題チケット「VISIT TOKACHI PASS」が訪日外国人客向けに 2017 年 11 月から実証実験として販売され、売り上げや、行動分析等も行われている。また HP 等多言語対応を行っており、現在ロシア語、英語、韓国語、中国語の簡体・繁体となっている。帯広空港は、帯広市が運営しており、海外からの乗り入れは、チャイナエアが、不定期にチャーター便の乗り入れをしているのみ。チャーター機は、空港施設の関係上、受け入れ時間の制約があるが、今年度、拡張工事を行い本年 3 月から運用時間の中で制約なく受け入れが可能となっている。



TOKACHI PASS  
パンフレット

帯広市中国語  
パンフレット

<まとめ>

十勝圏二次交通活性化推進協議会は、バス会社、タクシー会社、帯広市、観光事業者と協働で、十勝地域の観光活性化のために活動を行っているが、本来競合するバスとタクシーが、手を組むことにより、圏内の行きにくい観光地まで足を確保し、しかも観光地でのお得な利用が出来るというユニークな試みであり、地域の路線バス、タクシー等の公共交通機関を活性化するという観点からも意義があることである。また、観光客が路線バスを利用する際には、特に訪日客については、大きな荷物のスペース確保が大きな課題となっているが、とから帯広空港と帯広駅バスターミナル間において路線バスの荷客混載を検討している。

帯広市は、十勝牛や小豆、じゃがいも等の食、特にスイーツでよく知られた観光地であるが、女性の嗜好は、今後のマーケティングを行っていく上でキーとなる。今後、20代、30代の女性の利用が多いと言われているLCCのピーチ航空の釧路空港への乗り入れが計画されているが、観光客の誘客のためには、観光資源のプロモーションと平行して、観光地までの足を確保する二次交通の整備が必須である。特に、今後ますます国内客、訪日客共に旅行の個人化が進んでいく中では、観光情報の提供の中での現地までの交通情報の的確な提供方法等が検討される必要がある。

以上